

第8回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第8回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成19年3月13日 午後1時30分から午後3時15分まで
3	会 場	穂高総合支所 3階会議室
4	出席者	白澤会長、浅川副会長、尾台委員、唐沢委員、武井委員、林委員、 平倉委員、牛山委員、加々美委員、小松委員
5	市側出席者	黒岩総務部長、大内行政改革推進室長、堀内同室係長、平林同室係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成19年3月27日
協 議 事 項 等		
1	会議概要	
	(1) 開 会	(浅川副会長)
	(2) あいさつ	(白澤会長)
	(3) 議 事	(ア) 平成18年度における行政改革の取組状況について (イ) 「安曇野市アウトソーシングに関する指針」について
	(4) その他	
	(5) 閉 会	
2	審議概要	
	(ア) 平成18年度における行政改革の取組状況について	
	委 員	行政改革ということで、財政的なものを見据えた中で、無制限にといいわけにはいかないが、改革の推進に当たっては、「心」の必要な部分を見極め、適切に対応してほしい。
	委 員	推進に当たっては、取り組むべき項目の時間的な緩急を見極め、それぞれの取組項目には、受益者としての市民の存在があることから、時間をかけて行うことも大事かもしれないが、受益を享受できるような対応、緩急度の選択をお願いしたい。
	委 員	イベントの統一については、市になったこと、観光協会も統一されることも考慮すると1箇所という考え方が良いと思う。反面、地域の特色を活かすことも大事であると思うので、イベントの経緯や歴史を加味し、話し合いをしながら進めてほしい。
	会 長	市となって、あらゆる場面で一体的に業務を進めることが大事であるので、イベントについても、行政としての考え方を出来るだけ早い時期に、出来るだけわかり易い方法で説明していただきたい。
	委 員	全国的に話題になっている給食費の未納問題については、安曇野市も同様と思うので、給食費を税金と同じように休日窓口でも支払えるようにしてほしい。

事務局：現在の集金方法、未納状況等の実態を把握する中で検討したい。

(イ)「安曇野市アウトソーシングに関する指針」について

委員：民間でのアウトソーシングでは、人材派遣の活用が主になってくるが、行政においては、人材派遣の活用にあたっての法的な制約があるのか。

事務局：法律的な制約はありません。従来から、行政は人材派遣の活用については未経験であったことから、今後は、どのような業務、どのような分野が人材派遣に馴染むのかを検討していく必要があると考えている。また、非常勤職員の直接雇用との経費比較も十分検討したい。

委員：安曇野市には10ほどの三セクがあり、施設の指定管理者になっている。「指定管理にってしまったからと終わり」ということではなく、施設の運営、サービスの提供、経営状況等についても、常にチェックしてほしい。また、法人そのものについても、第三者機関等によるチェックが必要ではないか。

事務局：平成19年度について、外部の方を委員にお願いする中でしっかり検討していきたい。

委員：任期付職員とは、どのような位置付けになるのか。

事務局：特殊な知識や経験に基づき、行政では難しいような部分に、期限付きで携わっていただく方で、身分は、一般職員となる。

委員：再任用職員については、職員の天降りにとられないよう、また、市民は公務員に対して厳しい意識をもっているので、誤解が生じないよう、市民にわかりやすいシステムで導入していただきたい。

委員：職員の再任用については、専門的な技術や知識を有する分野において活用していくことが大事である。

委員：今後、団塊の世代の大量退職に伴い、人材の補充に苦慮することが予想される。民間では再雇用制度を活用しているのでも、行政においても同様の取組みが必要になってくる。

委員：行政の役割を企画立案へ特化し、民間に専門性と技術力を求めることは必要と思うが、地域との協働ということを考えるとき、行政の位置付けが、効率性と経済性だけを求める委託の実施者ということになってしまうと、受託者との好ましい関係は望めず、協働の広がりというものは望めないように思う。そこで、今後のアウトソーシングを考えていく中では、行政として、協働の広がりを期待できるような、基本的な発想を持つ必要がある。

委員：アウトソーシングのみが先行するのではなく、行政は、市民生活が維持できるような施策の展開に邁進していただき、その先にアウトソーシングがあることが望ましい。

会長：全般を通していかがでしょうか。

委員：最近の市の企画をみると、企画の内容、開催時期等、各部局間の調整がとれていないように思う。せつかく組織を改め、市民に行政改革の新たな方向性を示しても、行政内部がバラバラにやっていると、無駄が生じてしまう。そこで、個々の事務事業を見直すことも必要だろうし、本庁の部局間、本庁と総合支所

間の連携を十分図ることで、組織も機能してくると思う。

委員：組織は、常に変えていく必要があり、そこで、不都合が生じたり、サービスの提供に欠けるものあれば、どんどん見直していけば良いと思う。また、アウトソーシングについても、行政改革を掲げる中では「削減」を前面に出すことは仕方ないと思う。しかし、伴う苦情や弊害をキチンと受け止める受け皿を整えておく必要があると思う。

(ウ) その他

事務局：本日いただいたご意見をもとに、アウトソーシング計画を策定し、定員適正化計画と併せ、次回お示ししたいと思います。

会長：本日いただいた意見やご提言を汲み取っていただいて、行政改革を進めていただきたいと思います。

副会長：どうもご苦労様でございました。